



西林山善復寺

(さいりんざんぜんぷくじ)



<概要>

真言宗豊山派（しんごんしゅうぶざんは）に属し、本尊は十一面観世音だったと言われています。

時期は定かではありませんが（雄群村誌等によると、おそらく享保年間だと思われます）、龍円和尚という人が寺を再興したということです。

かつては、土居田の本村（ほんむら）にありましたが、大正2年に始まった耕地整理の際に、四季の景色が美しい玄佐池（泉）の東に移されました。

終戦前後から住職がいまいませんでしたが、昭和52年に住職を迎えることができ、境内が一新されたそうです。現在の山門(写真)は昭和61年に新築されました。

※ 玄佐池は、現在土居田集会所の裏にある駐車場になっています。



<本堂>



旧本堂があった場所に新築されましたが、前に比べてかなり大きな本堂になったそうです。そのため、旧本堂の横にあった大きなクスノキの木を切り倒すこととなり、その木でご本尊などを彫ることになったそうです。落慶法要は昭和60年に行われました。鬼瓦の鬼は向かって左を「阿」、右を「吽」として、「阿吽」の形をとっています。

※ 落慶法要・・・神社やお寺ができたことをお祝いする儀式

<水子地蔵・石仏>



山門をに入って左側に、水子地蔵があります。昭和58年に建立されました。生後まもなくして死んだ子を水子ということが多く、水子の魂は、地蔵の世話になると言われています。

その横には、松山新四国霊場七十一番の地蔵が安置されています。

<観音石像>



本堂の左手には、平成11年に開眼法要を行った観音石像があります。豊山派を始めた専誉僧正（せんよそうじょう）の死後400年を記念して作られたものです

<修行大師像>



この石像は、以前住職をしていた宮内章正和尚をしのんで、平成13年に作られたものです。

参考文献

「たちばなの郷」（平成15年 郷編集委員会）